

施策評価シート

評価年度	令和元年度	事業実施年度	平成30年度	施策主管次長名	市民協働部次長 深谷 正浩		
施策番号	66	施策名	多様な文化に親しみ、ふれあえるまち			総合計画掲載頁	104
関係課名	協働推進課、学校教育課、秘書課						

1. 施策の概要

施策の目的	対 象	対象指標名		単位	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
		人口		人	61,070	61,356	61,153	61,604	-
		在住外国人		人	1,944	2,054	2,159	2,325	-
	意 図	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い、交流したり、地域社会で共に生活していく環境を整える。		成果指標名	市の国際交流事業が重要だと答えた人の割合				
					市の国際交流事業に満足していると答えた人の割合				
					在住外国人の中で日本語教室に参加した割合				

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	市の国際交流事業が重要だと答えた人の割合		64	47.8	65	52	65	-
	指標設定の考え方と把握方法	市民が市の国際交流の重要性をどのように捉えているかを「行政評価アンケート」から把握						
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	市の国際交流事業に満足していると答えた人の割合		44	29.4	45	29.3	45	-
	指標設定の考え方と把握方法	市が行っている国際交流事業への満足度を「行政評価アンケート」から把握						
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	在住外国人の中で日本語教室に参加した割合		7.8	7	8	8	8	-
	指標設定の考え方と把握方法	外国人が生活するうえで日本語の習得は重要なものであり、日本語教室への参加者数から把握						
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	指標設定の考え方と把握方法							

3. 施策の評価

項目		評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	国際交流事業や市内在住の外国人とのふれあいを通じて外国文化への理解を深め、外国人との共生に努める。				
	行政	国際理解と多文化共生社会の実現のため、各種国際理解講座及び日本語教室の開催や日本語ボランティアの養成等を行う。				
達成度評価	近隣との比較	・西三河9市において、成果指標、及びに共通して比較できるデータはないが、高浜市を除き、海外の都市と姉妹提携等をしており、国際交流を行っている。 ・西三河9市ではみよし市を含めた8市が日本語教室を開催しているが、高浜市は開催していない。 ・外国人雇用企業との連携など在住外国人との多文化共生を視点とした取組を行う自治体もあるが、みよし市では実施していない。				
	過去3年間の実績との比較	過去3年間の実績との比較は、が重要と回答した人は29年度は減少したが、30年度は増加している。の満足していると答えた人の割合及び日本語教室に参加した割合については、概ね同程度で推移している。				
現状と課題		・みよし市には現在、2,100人以上の外国人が在住しており、定住化傾向が進んでいるが、平成31年4月1日の改正出入国管理法施行により今後さらに増加することも考えられる。 ・外国人定住者や新たに転入してきた外国人が、日本人との間に発生するトラブル等の問題について相互理解を深め解決し、一市民として市や地域の活動に参加し、コミュニティの形成ができるような機会の提供が今後も必要である。				
課題を踏まえた今後の取組の方向性		(今後の取組の方向性) ・友好都市交流事業を通じ、児童生徒がより一層国際社会に興味を持つよう姉妹校同士の作品交換、メール交換などの交流及びコロナバス市との中学生、教師の交流を継続する。 ・在住外国人と市民が互いの文化・風習等を理解し合い、外国人が地域社会で共に生活できる環境を整えるため、地域とのかかわり方やマナーなどの講義も含めた日本語教室の開催を継続する。				
市民意識	重要度	低い	満足度	低い	平成30年度市民アンケート調査による	